

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信
No.76 (2008.2.8)
事務局 TEL/FAX 0584-78-4119
大垣市田町1-20-1 近藤方

要らない! 木曽川水系連絡導水路 長良川に徳山ダムの水を流すな! ~岐阜市民、立ち上がる~

「岐阜(市)」の観光資源といえば「鶺鴒」。今年の1月 日に岐阜県の無形文化財に指定され、世界遺産登録を目指しています。大河でありながら、上流にダムがないことが自慢の長良川一だから鶺鴒が観光資源たりうるのです(長良川河口堰で、天然アユの遡上を阻害し、流れを悪くし・・・大きくダメージを与えていますが、それでも)。

徳山ダムの水を「鶺鴒」の直上流に流し込むことになる今回の「木曽川水系連絡導水路 上流分割案」は、「岐阜人」を大いに刺激しました。まだ短時間ながら、動きは急速に広まっています。長良川河口堰反対運動の頃の懐かしい顔、そしてこれまで「運動」経験のない新しい顔ぶれが、積極的に動いて下さっています。

1月8日に突然浮上し、1月14日に実行された「1秒間に流す0.7 m³の流れ方」市民調査は大きく報道されました。1月16日(水)には、金華山(岐阜城)を背景とした長良川の写真をメインにした全面意見広告(朝日新聞岐阜県版)を出し、反響がありました。これもあって、この日の「長良川に徳山ダムの水は要らない」市民学習会には、平日の夜という悪条件にもかかわらず、立ち見の出る160人の方が詰めかけました。

18日には、16日のアピールをもって岐阜市を訪れました。岐阜市はまるで他人事のような対応。でも市民の声が大きくなって、何か「それらしい」対応を迫られています。

「長良川」を巡って、新たな運動が動き始めました。

木曽川水系
導水路計画
徳山ダム(揖斐郡揖斐川町)の水を長良川などに放流する「木曽川水系連絡導水路計画」をめぐり、環境への影響を考へる市民学習会「長良川に徳山ダムの水は要らない」が16日、岐阜市橋本町のハートフルスクエアGで開かれた。百五十人以上が参加し、「川を用水路のように使う計画であり、生き物や川への配慮がない」と計画へ反対の声を上げた。

市民学習会実行委員会(代表・粕谷志郎岐阜大学教授)の主催。村上哲生
徳山ダム(揖斐郡揖斐川町)の水を長良川などに放流する「木曽川水系連絡導水路計画」をめぐり、環境への影響を考へる市民学習会「長良川に徳山ダムの水は要らない」が16日、岐阜市橋本町のハートフルスクエアGで開かれた。百五十人以上が参加し、「川を用水路のように使う計画であり、生き物や川への配慮がない」と計画へ反対の声を上げた。

08.01.17 岐阜新聞 河川環境への影響探る



導水路計画の問題点を討論する参加者ら—岐阜市橋本町、ハートフルスクエアG

「長良川に徳山ダムの水は要らない」市民学習会実行委員会(略称:長良川市民学習会)

代表:粕谷志郎 事務局長:武藤仁 090-1284-1298 <http://blog.goo.ne.jp/dousui>

☆2月20日(水) 18:30~ 実行委員会 会議(オープンです)

ハートフルスクエアG中研修室(JR岐阜駅続き)

☆2月24日(日) 現地視察会 = 「導水路」コースを見よう!

西平ダムから「導水路」予定地点を、車に分乗して見ていきます。

参加希望の方は、武藤仁さんに詳細を確認して下さい。Email: muto@mb.i-chubu.ne.jp

何が何でも水機構に新たな仕事を与えなくちゃ（予算を確保しなくちゃ） 木曾川水系河川整備計画策定の本末転倒

「導水路」を水機構事業として予算化するには、「河川整備計画&フルプランに位置づける」ことが必要です。これらの手続が完了していないのに、07年12月20日の政府予算案では、水機構事業として「導水路」予算を計上しています。（項：河川整備事業費＝15億円。目：河川総合開発事業費（直轄）＝1億円、水資源開発事業交付金（水機構）＝14億円）

声 明

2007年12月20日

法的手続きを蔑ろにし、必要な「治水」事業を蝕む

木曾川水系連絡導水路事業関連予算(財務省原案)に抗議する

徳山ダム建設中止を求める会 代表 上田武夫

20日に発表された来年度予算財務省原案は、ムダにムダを重ねる木曾川水系導水路事業に水資源機構事業とするために15億円満額をつけている。

この「予算」には大きな問題がある。3点指摘する。

- (1) そもそも不必要な上に環境破壊懸念の大きい「木曾川水系連絡導水路」
 - (2) 河川法16条の2の趣旨を踏みにじり、水資源開発促進法をも無視する法令遵守意識の欠如
 - (3) 必要な治水事業の予算が蝕まれること
- (略)

無駄に無駄を重ねるこの悪循環は断ち切れなければならない。

暮らしの破壊・環境の破壊を必然的に伴う「徳山ダム建設事業/徳山ダムの水を導水する木曾川水系連絡導水路事業」の中止を改めて求める。

徳山ダム導水路 反対意見が10件
国土省整備計画原案
国土交通省中部地方整備局は6日、名古屋市内で開いた木曾川水系流域委員会、今後三千年間の治水や利水対策を明示する河川整備計画原案に対する意見が、一般などから計二百四十六件寄せられたことを明らかにした。そのうち、揖斐川上流に建設した徳山ダム(揖斐川町)にためた水を木曾川、長良川に流す連絡導水路事業に関する一般意見は十二件で、うち反対が十件あった。

原案は昨年十一月末に作成一般や関係自治体、公聴会で意見を聞いてきたその結果、一般から百四十二件、自治体から五十二件などが寄せられ、岐阜市、愛知県一宮市、三重県桑名市で開いた公聴会では計二十人が意見を述べた。新年度に着手する導水路事業(総事業費八百九十億円)に関する一般の反対意見は「無駄に無駄を重ねる」「長良川の水質を悪化させる」などの主張が多かった。岐阜市も「アユなどの生態系や水道水への影響について十分検討してほしい」と注文を付けた。

08.02.07 中日新聞

07.12.20 中日新聞

〇八年度は環境調査のほか工事用道路の設置や測量、用地補償などを実施する。総事業費八百九十億円。国の負担分を除いた四百八十億円のうち愛知が三百十八億円、岐阜が三十億円、三重県が二十億円を負担する。



二〇〇八年度予算の財(岐阜県揖斐川町)の水務省原案で、徳山ダムを下流域で利用するため

徳山ダム 導水路に15億円

「木曾川水系連絡導水路」の建設関係費十五億円が盛り込まれた。八月に国と愛知、岐阜、三重の三県と名古屋で合意した上流と下流の二本の導水路を建設する分割方式での着工で、導水路事業は本格的に動き出す。導水路は濁水時の木曾川などの流量確保や、愛知の直轄事業から本年度、独立行政法人「水資源機構」に事業移管される予定だったが、実施計画策定の調査が遅れ、移管は〇八年度以降に遅れる見通し。

当初は、徳山ダム下流の揖斐川から岐阜県坂祝町の木曾川に放流する「上流ルート」(延長四十四キロ)を検討。しかし、一九九四年の濁水の教訓で長良川にも放流が必要と判断し、分割方式で二ルートをつくることにした。

批判の内容は、国交省HP（木曾川水系河川整備計画 <http://www.kisosansen-plan.jp/>）にも「意見」の形で載っています。（流域委員会への意見書や公聴会速記録など）

国交省中部地整は1月18日で木曾川水系河川整備計画策定への関係住民からの意見募集を打ち切りました。2月6日の「木曾川水系流域委員会」で「木曾川水系河川整備計画（案）」を提示し、最終段階に入ることを宣言しました。

「木曾川水系河川整備計画策定の進め方」全体が、1997年河川法改正の趣旨を無視した「まず水機事業一導水路事業予算ありき」式のものであることが、ここでも明らかになりました。



徳山ダム 3月完成

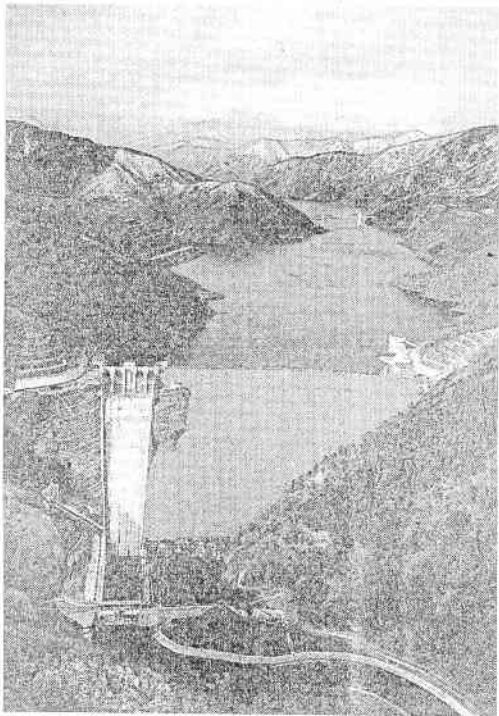
総貯水容量が浜名湖の2倍に達する国内最大級の徳山ダム（岐阜県揖斐川町）が3月末、計画から30年以上を経て完成する。治水、利水、発電の多目的ダムだが、計画ほど水需要が伸びず、利水面では無用の長物となりかねない。水の使い道が決まらないまま、愛知、岐阜両県と名古屋市は今後23年間の予定で、水利権の対価となる総額約1500億円の支出が迫られる。

ダム（総事業費約3353億円）は独立行政法人の水資源機構が

「利水」の意味薄れ

08.01.13 毎日新聞

使い道不明のまま—愛知、岐阜、名古屋 23年で1500億円支出



建設した。計画段階では人口と水需要の大幅増を見込んだものの、実態とは大きく乖離。05年度の愛知県の水道使用量（9・1億リットル）は10年前とほぼ同じで、名古屋市も92年度をピークに減少傾向に入った。

こうした実態を踏まえ名古屋市は98年、毎秒3リットルの水利権を機構めにより、自治体にはる。市町村や企業が受

建設した。計画段階では人口と水需要の大幅増を見込んだものの、実態とは大きく乖離。05年度の愛知県の水道使用量（9・1億リットル）は10年前とほぼ同じで、名古屋市も92年度をピークに減少傾向に入った。

こうした実態を踏まえ名古屋市は98年、毎秒3リットルの水利権を機構めにより、自治体にはる。市町村や企業が受

に返上、04年にも愛知、岐阜と名古屋が計5・4リットルを返上した。現時点での水利権の総計は92億リットル、愛知460億リットル、名古屋430億リットルを払わなければならない。単年度ベースでは、内訳は岐阜2・6億リットル、愛知2・3億リットル、名古屋1・7億リットル。各自治体はそれぞれ持って余し、年度以降11億リットルだ。

加えて取水にはインフラ整備も必要となる。だが、国との取り決めにより、自治体にはる。市町村や企業が受

完成間近の徳山ダム。ここに約6億6000万リットルの水が蓄えられる一昨年12月、本社ヘリから小林努撮影

益者となれば自分の負担を求められるが、ダム下流の岐阜県・揖斐川流域は地下水が豊富にあり、ダムの水を求める動きは出ていない。取水設備がでないければ、ダム水利権は不全となる。

愛知では木曾川流域の既存設備から取水するため、15年度の完成を目指し揖斐川から木曾川への導水路建設が決まっている。これに見込まれる地元負担は愛知318億円、名古屋121億円だ。

徳山ダムの水利権能について、国土交通省中部地方整備局河川部は「近年、濁水の頻度が増している。水源を増やすことは水の安定供給につながる」と指摘する。一方、「徳山ダム建設中止を求める会」の近藤ゆり子事務局長は「あった方がいいと、何でも造っていいものか。行政は都合のいいことしか説明せず、市民も無関心だった」と話した。

【秋山信一】

徳山ダム「完成」は遠い～されど償還は始まる～

徳山ダムは試験湛水中ですが、現在は75%しか貯まっていません。今のところ徳山ダム集水域の雪は少なく、3月末までに「完工放流（＝満水にして洪水吐きから放流する）」はできそうもありません。水資源機構は、「3月末に完成しなくても、大幅な事業費増加にならない。これまでの節約分で引き続き完成までの業務ができる」と説明しています。「節約分」ということは、もともと事業費に「余裕（何の目的か？）」がありすぎたということでしょう。

原則「完成後」に始まる償還は、「概成／精算」で、予定通り（？）来年度早々から始まります。岐阜県はまともな水道会計がないので、一般会計から償還します。知事自ら「財政非常事態」を口にする岐阜県に、使うあてのない水の償還が重くのしかかっています（これを「法の予定するところから従え」と声を大きくすると「では大垣市を中心とする大垣地区の水道事業者さんに負担して頂く」という話に化けかねない。大垣地区の住民としては、何とも困った話です。「だから言ったじゃないの。梶原知事に尻尾を振ることに汲々していないで、『大垣は新たな水源は要らない』とはっきり言えば良かったものを・・・」）。

徳山ダムに関する「問題」は今なお発生し続けています。運営委員会としては、当面「徳山ダム建設中止を求める会」という現在の名称を維持していくことに決めました。

なお、「徳山ダム建設中止を求める会・事務局」のホームページは、管理者のご都合で閉鎖となりました。これまでのHPの情報を基に、新HPサイトを立ち上げるつもりでいます。（この春は事務局の人員が他の運動で超多忙だったり、体調に問題があったり、技術的に未熟だったり、等でただちに新HPを立ち上げられないことをご寛恕下さい）。

<運営委員会>

★ 徳山ダム裁判資料集（CD-R版）を作成する予定です。（詳細未定）

2007年会計報告

☆ 今後は儉約に務め、財政上の工夫を行いますが、会の歩みの記録作成や新たな運動の応援などにもお金が要ります。振込用紙を同封しますので、どうか、2008年の年会費2000円又はカンパを、よろしく願いいたします。

収入	563,345(繰り越しを除く)	前年からの繰り越し	891,511
支出	531,647	現金	43,234
		郵便局	342,497
		銀行	505,780
支出内訳			
通信費	125,811		
郵送費	192,461		
他団体へ	24,720	会としての残高	924,209
資料費	62,807	郵便局	416,787
書籍仕入れ	57,839	銀行	505,780
紙・文具等	47,721	現金	1,642
機械印刷費	11,463		
雑費	8,825		

「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫

編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1

TEL/FAX 0584-78-4119

Email: k-yuriko@octn.jp

郵便振替：00800-7-31632

年会費 2000円

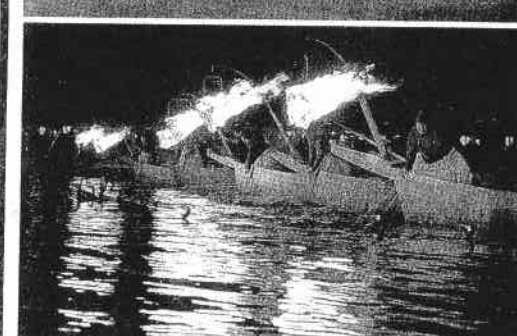
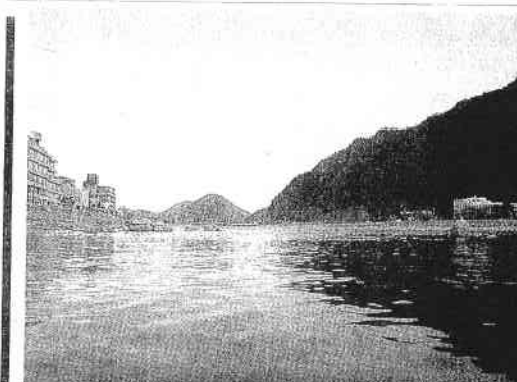
導水

揖斐川上流の徳山ダム（揖斐川町）から「木曾川水系連絡導水路」を使って長良川へ流す計画になっている水が、アユを始めとする長良川の生態系に悪影響を与えるのではないかの懸念が広がっている。ダムで貯水された水は、富栄養化したり、冷えて濁ったりしているからだ。「長良川の鵜飼漁」の世界遺産登録を目指す岐阜市や観光関係者も気をもんでいる。（保坂知晃）

ダム底 成長妨げる危険 水面 酸欠招く可能性

アユは大丈夫？

連絡導水路は、徳山ダムから約30キロ下流の西平ダム（揖斐川町）から、長良川を經由して木曾川へ流す「上流ルート」と羽島市付近の長良川から木曾川へ流す「下流ルート」の2本が併設される計画だ。岐阜市の長良川にはダムの水が毎秒7・7リットル流れるという。一方、日光が当たる水面はプランクトンの嗜好の繁殖場所になる。豊富なプランクトンは川底の酸欠を招く可能性があるという。村上教授は「成魚は生きた」と語る。村上教授によると、ダム底の水温は約4度と冷えていて、濁りが著しい。冷温水はアユの成長を阻害する可能性があるという。村上教授は「成魚は生きた」と語る。



岐阜市で鵜飼漁をする人々。背景には徳山ダムが見える。

鵜飼漁への悪影響懸念

「長良川の鵜飼漁は一大事。同市関係者は「鵜飼は長良川の自然の中で育まれ、受け継がれてきた」と、価値がある。失った取り戻せない」と不安を隠さない。岐阜市長尾川鵜飼の山下純司代表（88）も「1300年続いた鵜飼が今まで通り続けたい。よって、よく研究と議論をしてから計画を決めてほしい」と、導水路計画の動きを注視する。導水路計画に反対する大学教授や市民ら約20人は昨年12月、市民学習会実行委員会をつくった。養鵜人の武藤に事務局長を委嘱した。

08.01.27 朝日新聞

徳山ダム関連で抗議声明を発表 中止を求める会
一〇〇八年度予算の財務省原案で、徳山ダム（揖斐川町）の水を下流域で利用するための「木曾川水系連絡導水路事業」に十五億円が盛り込まれることを受け、徳山ダム建設中止を求める会（上田武夫代表）は「環境破壊の懸念が大きく、無駄な事業だ」とする抗議声明を出した。
導水路は、水は木曾川だけでなく、長良川にも放流する。声明は「長良川に徳山ダムの水を流すことにより、河口堰（せき）に続いて河川環境の一層の悪化をもたらす」と指摘。総事業費が約八百九十億円にも上るとも挙げ、「無駄な事業は、必要な治水事業の予算をむしばむ」と批判した。（河原広明）

岐阜市に情報開示要請

木曾川導水路 反対の市民団体 説明会も求める
徳山ダムの水を長良川などへ放流する「木曾川水系連絡導水路計画」に反対する市民らでつくる「長良川に徳山ダムの水は要らない」市民学習会実行委員会（18日、把握している情報を開示し、計画に対する姿勢を明らかにすることを求める要請書を岐阜市に提出した。要請ではさらに、市民に開かれた説明会の開催や、計画の中止もしくは留保を国に要求することを求めている。後藤昇市長が監督部長が「市は昨年4回、市民との懇談会を開

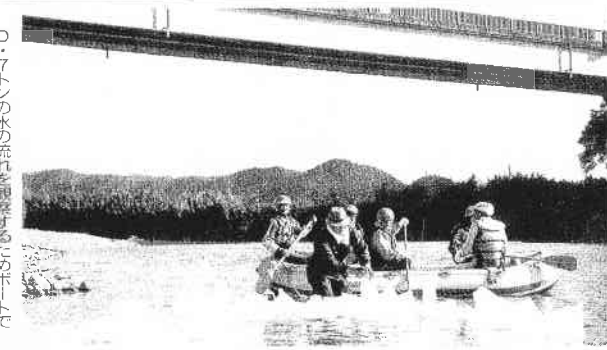


要請書を読み上げる市民学習会実行委員会のメンバーら

08.01.19 毎日新聞

徳山ダム放流 影響は？

長良川で経路初観察 岐阜



市民学習会 4キロ間調査、あす報告

県内外の市民や専門家らでつくる市民学習会「長良川に徳山ダムの水は要らない」のメンバー約四十人が十四日、岐阜市の長良川に放流する「木曾川水系連絡導水路計画」が昨年八月に公表され、少なくとも流されることされる毎秒〇・七リットルの水をどの経路をたどるかを観察するために初めて試みた。調査は、千鳥橋下の長良川右岸をスタート地点として、長良橋下までの約四キロを対象。〇・七リットルの水をボリ袋に詰め、メジャーが放流されるのが公で経路を調べた。水はこの区間を流れるのに約一時間十分かった。学習会代表の粕谷志郎（岐阜大学教授・環境生態学）は「川の流れの中心を流れ驚いている。アユの生息地にも影響する」と指摘している。調査結果は十六日午後六時半から、JR岐阜駅前のハートフルスクエアへ。

Gで開かれる市民学習会で報告される。「ダムが河川に及ぼす影響」と題した村上哲生・名古屋女子大教授（陸水学）の講演や、木曾川水系連絡導水路計画の説明などもある。申し込みは不要だが資料代五百円が必要。問い合わせは事務局の武藤にさんへ電話090-12384-1298へ。

08.01.15 中日新聞

07.12.22 中日新聞

水利用は能力の16%

徳山ダム 満水5月ずれ込みも 水資源機構 運用開始は予定通り

徳山ダム(岐阜県揖斐郡)が当初は三月末までに試験運用を開始する計画だったが、試験運用を安全に確保するために、古川市内で開いた徳山ダム事業管理検討会(たみずみ)の最終報告が、遅ければ五月半ばに発表される。治水試験終了の具体的な時期が示されていない。

当初は三月末までに試験運用を開始する計画だったが、試験運用を安全に確保するために、古川市内で開いた徳山ダム事業管理検討会(たみずみ)の最終報告が、遅ければ五月半ばに発表される。治水試験終了の具体的な時期が示されていない。

長良川河口堰(上)

水利権持て余す

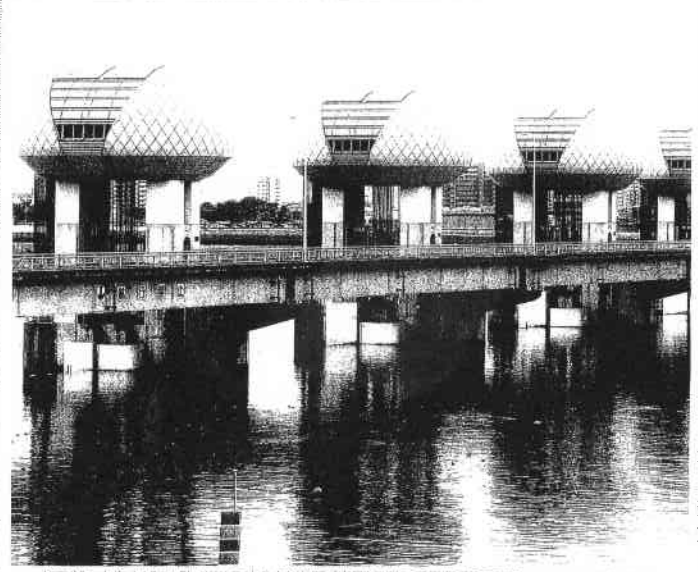
水資源機構や「水源確保に必要」

建設の是非を巡って全国的議論を呼んだ長良川河口堰の本格運用から12年が過ぎた。この間、事業主体の独立行政法人「水資源機構」(旧水資源開発公社)が「治水、利水両面で効果があった」と強調する。木曾川水系は「水余り」で、愛知、三重両県、古川市の事業費負担は増大している。環境への悪影響を主張する関係者も少なくない。河口堰をめぐる現状を利水と「治水・環境」の二回に分けて検証する。

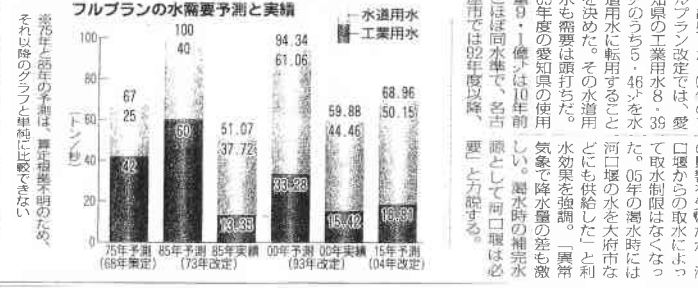
予測と実績

「大規模ゆえに、水資源機構長良川河口堰管理事務所(以下、管理事務所)の治水、利水両面で効果があった」と強調する。木曾川水系は「水余り」で、愛知、三重両県、古川市の事業費負担は増大している。環境への悪影響を主張する関係者も少なくない。河口堰をめぐる現状を利水と「治水・環境」の二回に分けて検証する。

追跡 2008



10のゲートを上げ下げして川をせき止める長良川河口堰。三重県桑名市で1月22日、小林勝博撮影



関係自治体 膨れ上がる負担 徳山ダム導水路に期待感

関係自治体には、河川の大規模な事業費負担が、堰の利用割合に応じ、ある。07年度まで、203億円の事業費負担がある。07年度まで、203億円の事業費負担がある。

◇長良川河口堰建設に伴う自治体と国の負担額◇

自治体	治水分 (事業費)	利水分 (負担額)
愛知	80億円	324億円→858億円
三重	80億円	283億円→610億円
岐阜	80億円	58億円→155億円
合計	240億円	665億円→1623億円
国	378億円	292億円
合計	558億円	935億円→1915億円
国	558億円	1493億円→2473億円

※毎日新聞まとめ。1000万円単位を四捨五入

河川の水を待たず、事業費負担による財政負担を軽減したい。愛知県や岐阜市が期待を寄せるのが、春の格別となる徳山ダム。岐阜県や木曾川水系の自治体は、これに期待を寄せるのが、春の格別となる徳山ダム。



最大の徳山ダム総貯水容量約6億6000万リットルの水を水運工は、揖斐川、木曾川間の「二流ル」と別流の動きかけも、木曾川から長良川へ、長良川を経て木曾川に流す計画。愛知県、岐阜市は、これに期待を寄せるのが、春の格別となる徳山ダム。

問題以上に重要、世界大教授(人文地理学)が、既存のダムをうまく利用すれば、河川の治水と利水は両立できるはずで、河口堰も木曾ダムも要らな設計に注力し、毎秒22.5リットルの水が、木曾川に流す計画。愛知県、岐阜市は、これに期待を寄せるのが、春の格別となる徳山ダム。

河川の水を待たず、事業費負担による財政負担を軽減したい。愛知県や岐阜市が期待を寄せるのが、春の格別となる徳山ダム。岐阜県や木曾川水系の自治体は、これに期待を寄せるのが、春の格別となる徳山ダム。

長良川河口堰をめぐる主な動き

- 1959年9月 伊勢湾台風による水害発生
- 60年1月 建設省(当時)が長良川河口堰ダム構想発表
- 05年6月 国が木曾川水系を水資源開発水系に指定
- 88年10月 河川1号建設基本計画を閣議決定
- 水資源開発基本計画(フルプラン)策定
- 71年12月 建設着手
- 73年3月 フルプラン改定(第2次)
- 73年12月 徳島県が建設費止め理屈(8)取り下げ
- 78年9月 岐阜県知事が管工工事
- 82年4月 住民らが差し止め訴訟
- 83年3月 フルプラン改定(第3次)
- 94年5月 全ゲート試験運転
- 7月 建設完了
- 95年3月 野坂岩盤建設部(当時)が本格運用開始を発表
- 7月 全ゲート運用開始(運用開始)
- 建設差し止め訴訟控訴廃却
- フルプラン改定(第4次)
- 04年6月

減少傾向が続いている。毎秒22.5リットルの供給能力がある河口堰の水を現在利用しているのは、わずか約1割程度。愛知・知多の約2・8割と、三重・北三河地域の約0・6割とで、わずか16%の利用率となっている。減少傾向は、07年度まで木曾川の治水による取水制限の影響を受けたが、河口堰からの取水によって取水制限はなくなった。05年の治水時には、治水と取水を同時に供給することによって治水と取水の両方を確保した。治水と取水の両方を確保した。治水と取水の両方を確保した。